

冬の所蔵品展

11月26日(火)～1月19日(日)

鹿児島市立美術館

市美だより 2019. 冬号

郷土を愛し、歴史を描き残した画家

こまつ こうせん
小松 甲川

今年、「島津の退き口」などで数々の武勇伝を残した戦国武将・島津義弘公没後400年です。本作は、その義弘公の姿で、1935年、生誕400年を記念し描かれました。描いた小松甲川は幕末の鹿児島に生まれ、薩摩藩奥絵師の父・佐多椿斎から絵画を学び、さらに書や漢学、和歌を修めました。

描かれている金覆輪を施した筋兜に色々威胴丸の甲冑は、義弘が、慶長の役から帰国後、指宿の杖間神社に奉納した甲冑の写しを参考にしており、歴史考証を踏まえて描かれました。

小松甲川は、明治から昭和にかけての新しい時代に、それ以前の優れた文化を見つめ、伝統画法を守り続けた画家であり、郷土を深く愛した文化人でもありました。

小企画展「薩摩ん殿様とその時代」で展示中。
(12月22日(日)まで)
ほかにも島津の殿様にかかわる作品や昔の地図などの資料も展示しているよ!

《島津義弘公馬上姿》



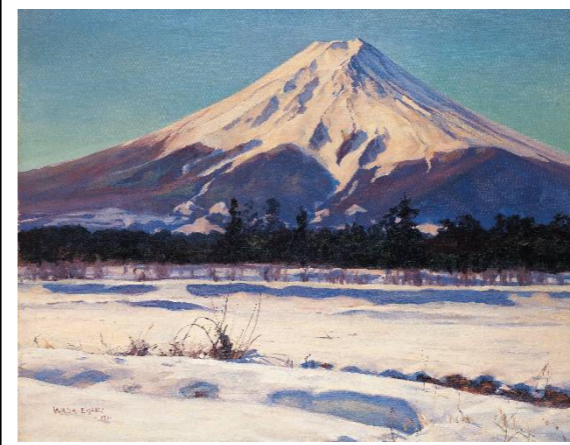
●展示中の主な作品●

西洋
油彩画



モーリス・ユトリロ《ブリ・シュル・マルスの教会》1919年頃

日本
油彩画



和田英作《富士(吉田より)》1933年

★ **ギャラリートーク**のご案内 (作品解説会)
学芸員が作品について分かりやすく解説します。
毎週土曜日、
14:00～15:00
実施しています。



- 《トーク内容》
- 11月30日 小企画展「薩摩ん殿様とその時代」
 - 12月7日 冬の所蔵品展「日本の美術」
 - 12月14日 小企画展「薩摩ん殿様とその時代」
 - 12月21日 冬の所蔵品展「西洋美術」
 - 12月28日 冬の所蔵品展「彫刻・工芸」
 - 1月4日 小企画展「ガラスに魅せられて」
 - 1月11日 冬の所蔵品展「西洋美術」
 - 1月18日 小企画展「ガラスに魅せられて」

「小・中学生の常設展示 無料の日」

毎月第3日曜日 は、小・中学生は通常150円の常設展を無料でご覧になれます。
12月15日(日) は、冬の所蔵品展と小企画展「薩摩ん殿様とその時代」を、
1月19日(日) は、冬の所蔵品展と小企画展「ガラスに魅せられて」を無料で観覧できます。

特集：開運！おめでたい吉祥の美術

古来人々は幸せへの願いを様々なモチーフに込め、造形化してきました。

新しい年のはじまりを迎える時期にちなみ、松竹梅や鶴亀、七福神など縁起の良い、おめでたい意味合いを持つ吉祥のモチーフが表された美術を、薩摩の絵師たちによる日本画、薩摩焼などの工芸、新納忠之介による彫刻作品からご紹介します。

長寿や夫婦円満の象徴である鶴、出世のシンボルである鯉など、今も昔も変わらない幸せへの願いが生み出した吉祥の美術、その豊かな世界をお楽しみ下さい。

恵比寿天は、釣竿と鯛を手にする大漁追福・商売繁盛をもたらす漁業の神様です。



新納忠之助《恵比寿天像》